

ボーリング柱状図

調 査 名 宮地良典ほか（2004）, 田辺晋ほか（2006）

事業・工事名 産総研 都市地質プロジェクトの層序ボーリング調査

ボーリングNO.									
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

シートNO.

ボーリング名	GS-KM-1（小松川）		調査位置	東京都江戸川区小松川2-3				北 緯	35 ° 41 ' 45.07 "	
発 注 機 関	（ 独 ）産業技術総合研究所				調査期間	2003_03_ ~ 2003_10_			東 経	139 ° 50 ' 57.38 "
調 査 業 者 名	出展：(独)産業技術総合研究所RIO-DB「関東平野の地下地質・地盤データベース」		主任技師			現 場 代 理 人			コ ア 鑑 定 者	ボーリン グ責任者
孔 口 標 高	-1.99 m	角 度		方 向		地 盤 勾 配		使 用 機 種	試 錐 機	ハンマー 落下用具
総 掘 進 長	67.23 m								エ ン ジ ン	ポ ン プ

標 尺	標 高	層 厚	深 度	柱 状 図	土 質 区 分	色 調	記 事	地層岩体区分	孔内水位 (m)  測定月日	試料採取			室内試験
										深度  (m)	試料 番号	採取 方法	
1					盛土 (BS)			盛土					
2	-4.19	2.20	2.20										
3	-4.99	0.80	3.00		貝殻混り細砂 (FS-Sh)		貝殻と植物片に富む淘汰のよい細砂。 ヤマトシジミ・マガキを産出。 最上部に植物根を含む。	沖積層（デル タプレーン）					
4					貝殻混り細砂 (FS-Sh)		堆積相G 主に細粒砂からなり、生物攪乱をうけたシルト層から貝殻に富む淘汰のよい細粒砂へと上方粗粒化する。  貝殻片多数含む。 植物片含む。 淘汰がよい。	沖積層（デル タフロント）					
5	-7.49	2.50	5.50										
6					貝殻混り細砂・シル ト互層 (FS-Sh/M)		極細砂・シルト細互層。 貝殻を含む。 下部に生痕が認められる。 ダブルマッドレイブが認められる。一部に植物片を含む。 7.01mより海生、汽水生、淡水生の珪藻化石を産出。			7.05 7.05	-177895		C14年代(2460 ± 140calBP)
7	-9.29	1.80	7.30					沖積層（デル タフロント）					
8					貝殻混り細砂 (FS-Sh)		貝殻片、生痕を含む。 下部はシルトからなり、シルト層にヒメカノコアサリ、マメウ ラシマガイ、ヒメマスオガイ、ウラカガミ、マガキなどの貝化 石が点在する。 10.0m付近、11.0m付近植物片を含む。 11.00-12.00mには径1cm以下の円礫が点在。			8.74 8.74	-177896		C14年代(3260 ± 110calBP)
9													
10								沖積層（デル タフロント）					
11										11.13 11.13	-177897		C14年代(3820 ± 130calBP)
12													
13	-14.79	5.50	12.80					沖積層（デル タフロント）					
14					貝殻混り砂質シルト (MS-Sh)		合併の貝化石を多く含む、生物攪乱を受けた砂質シルト。 上位層、上方粗粒化を示す。 攪乱をうけていないシルト中には層厚5mm以下の極細粒砂の平 行葉理が認められる。 23.00m以浅コンクリーションが認められる。 13.02m、20.01m、28.02mより海生、汽水生の珪藻化石を産出 する。			13.67 13.67	-177898		C14年代(4020 ± 130calBP)
15													
16								沖積層（デル タフロント）					
17													
18													
19								沖積層（デル タフロント）					
20										18.44 18.44	-177899		C14年代(4200 ± 140calBP)
21													

22					貝殻混り砂質シルト (MS-Sh)		合併の貝化石を多く含む、生物攪乱を受けた砂質シルト。上位層、上方粗粒化を示す。攪乱をうけていないシルト中には層厚5mm以下の極細粒砂の平行葉理が認められる。23.00m以浅コンクリーションが認められる。13.02m、20.01m、28.02mより海生、汽水生の珪藻化石を産出する。	沖積層（プロデルタ）		21.12	-177900	C14年代(4300 ± 120calBP)
23										25.05	-177901	C14年代(4390 ± 130calBP)
24										28.66	-183669	C14年代(4940 ± 120calBP)
25										28.66	-183670	C14年代(6060 ± 120calBP)
26									29.10	-177902	C14年代(7660 ± 100calBP)	
27									29.66	-183671	C14年代(9920 ± 180calBP)	
28									30.88	-177903	C14年代(9900 ± 210calBP)	
29	-31.19	16.40	29.20		貝殻混りシルト質中砂 (MSM-Sh)		貝殻とよく円磨された中礫を含む塊状シルト質中砂層上位層へ上方細粒化する。下面との境界が明瞭。下位層まで掘りぬく生痕化石あり。29.20-29.40mは生物攪乱をうけている。29.60-30.50mマッドクラストが散在。29.64m海生の珪藻化石を産出。離弁のヌマコダキガイ類を産出。30.30m以浅にバカガイを産出。厚さ2mmの極細砂と厚さ40mmのシルトとの細互層。30.90-31.10mダブルマッドドレイプが見られる。30.90-32.90mヌマコダキガイ類、ヤマトシジミの貝化石および中・粗砂で充填された生痕多数あり。32.9m付近合併のヌマコダキガイ類からなる貝化石密集層がみられる。31.34m、33.11m汽水生の珪藻化石を産出。33.94m、34.50m淡水生の珪藻化石を産出。	沖積層（エスチュアリーシステム/海進砂）		31.23	-183672	C14年代(10160 ± 170calBP)
30					貝殻混りシルト・細砂互層 (M-Sh/FS)					31.85	-177903	C14年代(9920 ± 180calBP)
31	-32.89	1.70	30.90							31.85	-183673	C14年代(10240 ± 60calBP)
32										34.87	-177905	C14年代(10730 ± 140calBP)
33									36.74	-177906	C14年代(10960 ± 200calBP)	
34	-36.09	3.20	34.10		中砂 (MS)		斜交層理がみられる。下面は浸食面。貝殻片、マッドクラスト、円磨された中礫を含む。34.50-35.00m付近に植物根を含む。37.00-37.70m層厚5mm以下の極細砂と極粗粒シルトから平行葉理を5mm以下の間隔で挟む。36.96mより淡水生珪藻化石を多産。	沖積層（蛇行河川システム）		39.05	-177907	C14年代(11160 ± 80calBP)
35	-36.49	0.40	34.50		シルト (M)					42.64	-177908	C14年代(11440 ± 190calBP)
36										45.46	-177909	C14年代(12710 ± 110calBP)
37										50.06	-177910	C14年代(13020 ± 100calBP)
38									54.01	-177910	C14年代(13020 ± 100calBP)	
39	-40.49	4.00	38.50		中砂・シルト互層 (MS/M)		40.20-40.70mトラフ型斜交層理がみられる。			54.01	-177910	C14年代(13020 ± 100calBP)
40												
41	-42.69	2.20	40.70		有機質シルト (MO)		木片を含む。41.30-42.70m層厚5mm以下の極細砂と極粗粒シルトからなる平行葉理を5mm以下の間隔で挟む。42.07mより淡水生珪藻化石を多産。					
42												
43												
44												
45	-46.99	4.30	45.00		中砂 (MS)		堆積構造は下位から、セット高20cmのトラフ型斜交層理、平行層理、セット高が1cm以下のクライミング・リップル層理へと変化。木片を含む。中礫、マッドクラストを含む。					
46												
47												
48	-50.09	3.10	48.10		有機質シルト (MO)		植物根、木片を含む。51.4-51.9m幅数mm-1cmの垂直方向の細砂の脈あり。					
49												
50												
51												
52	-54.09	4.00	52.10		貝殻混り砂 (S-Sh)		中砂から極細砂へ細粒化する礫混り砂層。層厚が10cm以下の細礫層を挟む。平行葉理、斜交層理、コンボリューションが認められる。					
53												
54												
55												

